

立山三山・奥大日三山の稜線散歩

期日 2014年9月17日～9月21日 参加 石川誠 佳子



「青空の下剣岳が美しい」

- 行程 9/17日(水) 自宅 6:00 発横々ー東名ー海老名 jctー関越道ー上信越道ー北陸自動車道ー立山駅前千寿荘泊 15:10 着
- 9/18日(木) 千寿荘(立山駅ケーブル乗り場) 7:00ー美女平バスで室堂へ
室堂山荘 9:30 発ー10:00 ーノ越山荘 10:20ー11:30 雄山 11:50ー12:10 大汝山 12:20ー富士ノ折立 12:30ー13:50 真砂岳 14:00ー別山経由剣御前小屋 15:10 着
- 9/19日(金) 剣御前小屋 6:55ー7:55 雷鳥平分岐 8:05ー10:20 奥大日小屋 10:50ー12:35 七福園 12:45ー中大日岳経由ー13:20 大日小屋 13:35ー13:55 大日岳 14:05ー大日小屋 14:40 着
- 9/20日(土) 大日小屋 6:50 発ー7:50 水場 8:00ー9:20 大日平山荘 9:30ー牛首 10:35ー猿ヶ馬場 11:00ー大日岳登山道入り口 12:00 着ー称名滝見学ーバス停 13:20 発ー立山駅バス停 13:40 着ー芦峯寺(立山ガイド発祥の地散策)千寿荘泊
- 9/21日(日) 立山から北陸道・上信越道～糸魚川沿線～大町宮沢宅訪問し中央高速經由往路帰宅 途中渋滞に巻き込まれ夜遅く帰宅する。



「室堂立山記念碑」



「室堂平俯瞰」



「稜線からの黒四ダム」



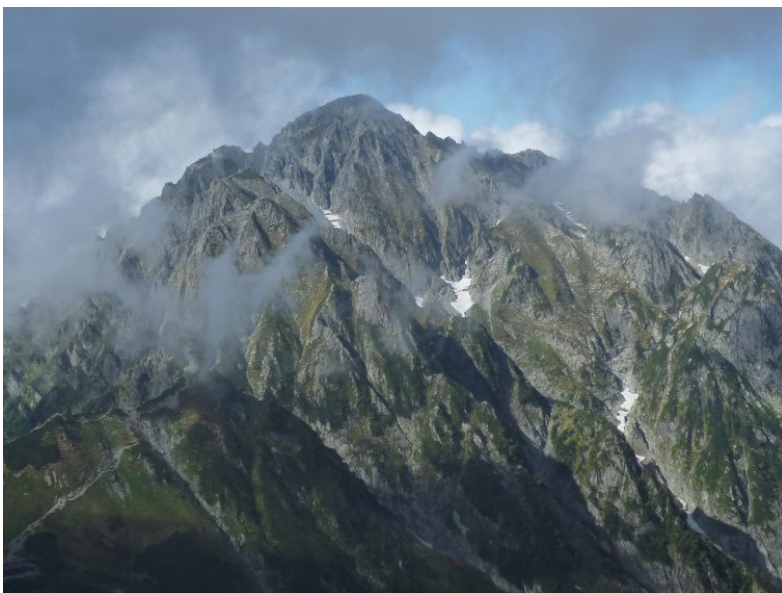
「雄山への登り下は一ノ越山荘」



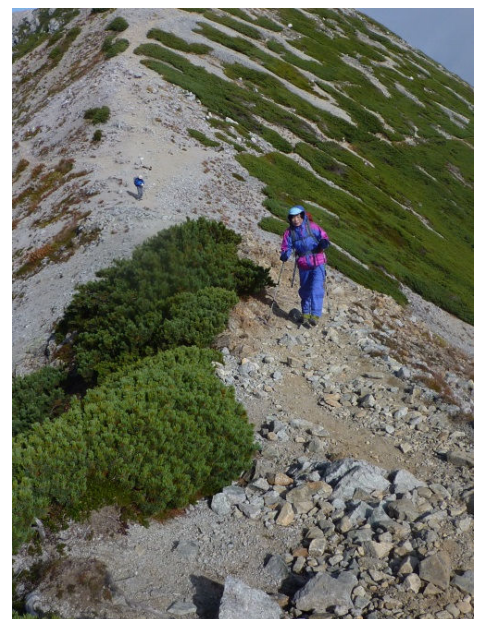
「立山の稜線」



「内蔵助小屋」後は後立の赤沢岳？



「雲が切れて剣岳を見る」



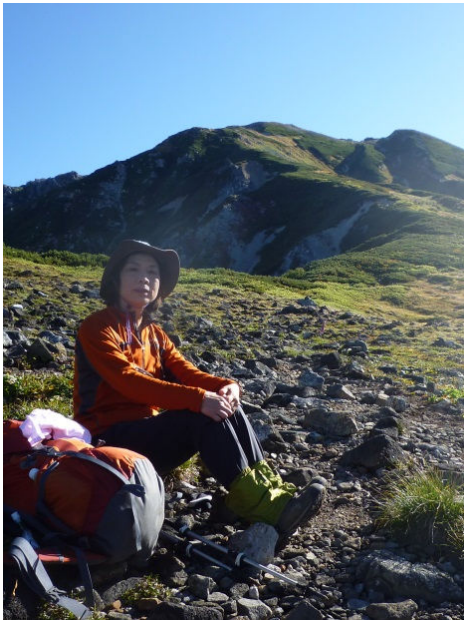
「別山への登り」



「大汝山から雄山の稜線」



「奥大日への稜線」



「小休止」



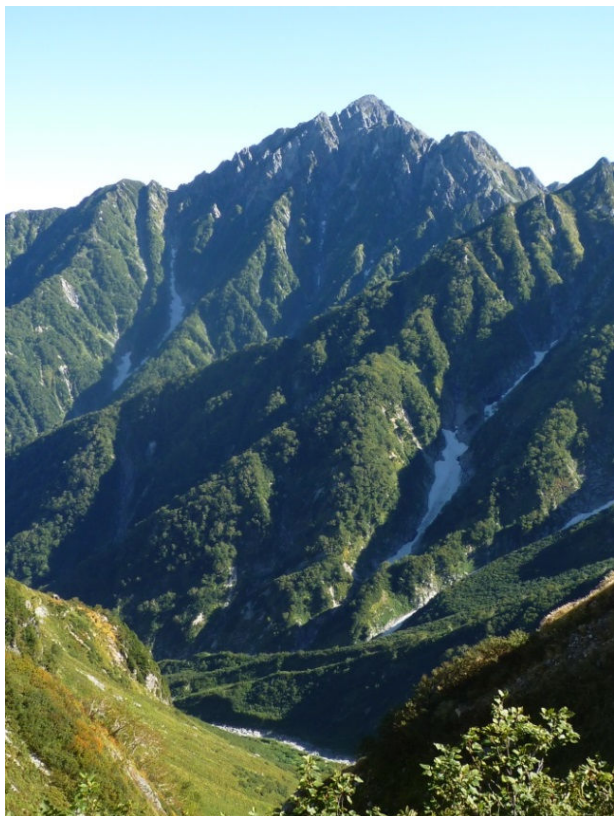
「青空の中・奥大日を仰ぐ」



「剣岳を背景に」



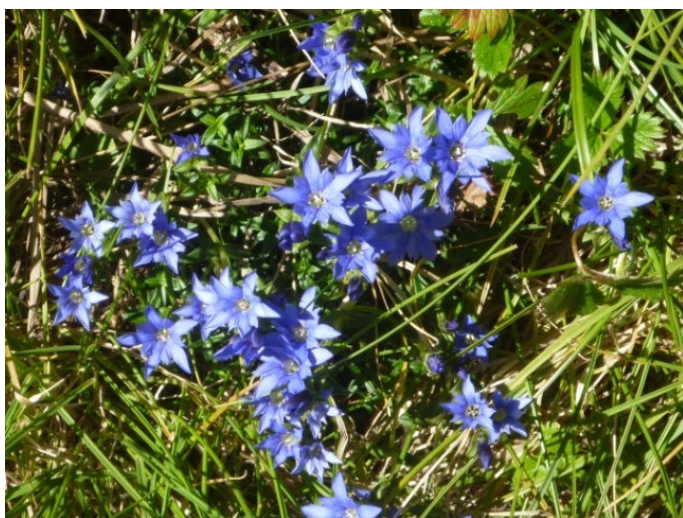
「もうすぐ冬支度の雷鳥」



「剣に突き上げる毛勝谷・東大谷」



「剣岳をバックに」



「キキョウ」



「称名川の溪谷」



「奥大日の頂上で」



「トリカブト」



「奥大日から剣岳」



「七福園」



「大日小屋～大日岳を見る」



「大日岳の頂上」



「全盲の登山者をリードする女性ガイド」



「大日岳小屋」



「大日平を称名滝へ」



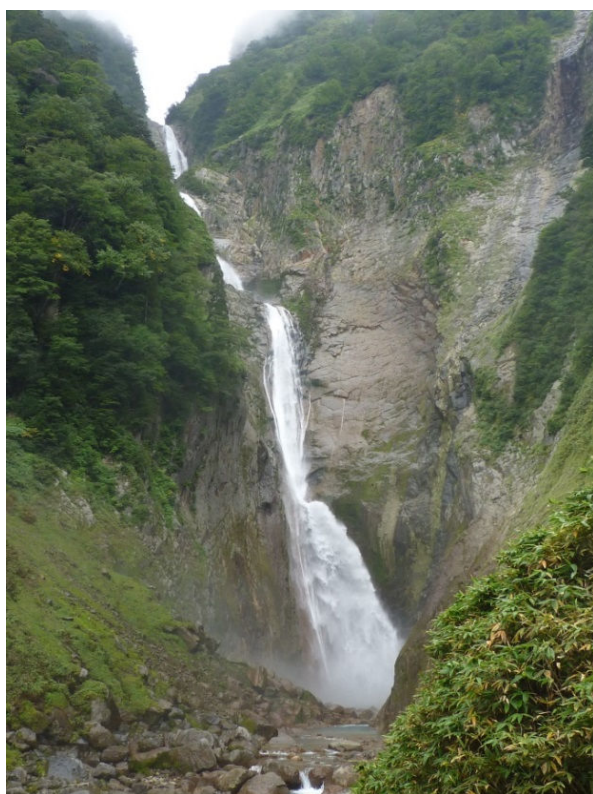
「大日平から薬師岳を望む」



「大日平へ」



「ラムサール条約に登録された大日平」



「落差日本一の称名滝」 完登された。



「真近かに見る称名滝」



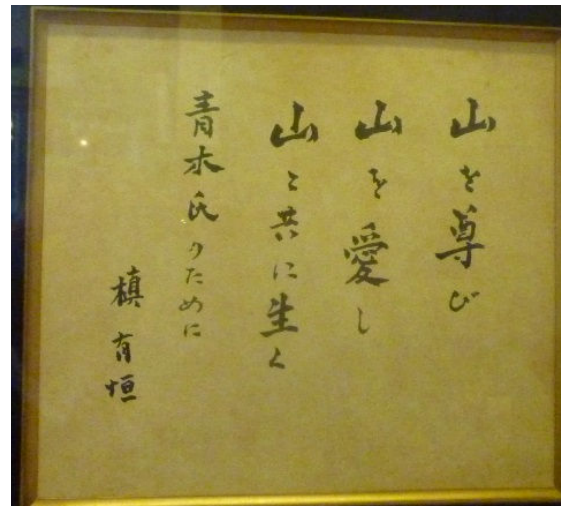
「布橋灌頂会 9月22日開催」



「芦峯寺にある布橋」



「大町の宮沢宅に立ち寄る」



「立山駅前の青木食堂の榎さんの色紙」

山行を終えて

立山三山の縦走は昭和48年5月会の春山合宿で槍ヶ岳まで縦走をして以来の山行である。秋の立山から称名滝へのコースを選んだ。雄山の頂上では雪に見舞われ初雪との情報を社務所で聞いた。春はのんびり雪の稜線を歩いた思いが強いが、意外と長く景色を楽しむことが出来た。

途中の立山乗越では、夏の剣岳周回合宿で、馬場島から小窓乗越、池の谷に降り、三ノ窓に上がって長次郎雪渓を下り、室堂から立山川に下り馬場島へとみんな一周した思い出が強い。

途中、立山川の雪渓が切れてスノーブリッジの通過(水面から高さ10mほど)にはいつ崩れるのではないかと肝を冷やしながらか通過した思い出が蘇ってくる。

連日天気にも恵まれ奥大日から大日岳への稜線は裏剣岳を見ながら早月尾根、小窓尾根、東大谷、毛勝谷の急峻な谷を見ながらしばし昔の山行を思い出しながら稜線を辿る。

大日小屋では全盲の方を二人の女性ガイドに前後で足元を声で知らせながら引率され、これから奥大日の方へ縦走するとのことで、その苦勞と登山される方の強い遺志にしばし感動した。

聞けばガイドの方は、富山山想会の方とかでいろいろな山にその方を案内しているとのことであった。富山山想会にはかつて春の剣合宿で馬場島からトラックに載せて戴いた思いがあり、懐かしかった。立山駅前に青木食堂という店があり、ラーメンでも食べて帰ろうと言う事で入ったところ、壁に榎有恒さんの色紙があり、訳けを聞いたところ、店の主人が文科省の立山登山訓練所に榎さんが講演に来られた時に食堂に立ち寄り書いてもらったとのことであった。

この榎さんの文章は、確か鹿島槍ヶ岳の麓、鹿島部落にある狩野さん宅の宿帳でも見た覚えがあった。ここで女主人と話が盛り上がり、宇治長次郎は有峰の出身だが、佐伯平蔵は芦峯寺の出身とか芦峯寺の立山ガイドの系譜を聞くことが出来、映画「点の記」撮影スタッフも撮影中は寄って行ったとのこと、大変貴重なお話を聞き長居をしてしまう。

丁度当日(9/21日)は、「**布橋灌頂会**(ぬのばしかんじょうえ)」が開催されるとのことであったが、帰る日でもあったので残念ながら見学は出来なかった。2014.9.21日に開催された。

※「**布橋灌頂会**(ぬのばしかんじょうえ)」とは。

かつて女人禁制で霊山・立山への登拝が許されなかった女性たちが、ふもとの橋を渡って極楽往生を願う伝統儀式「布橋灌頂会(ぬのばしかんじょうえ)」が21日、立山町芦峯寺で3年ぶりに開かれた。白装束に身を包んだ女性85人が、目隠しをしたまま赤い架け橋を渡った。

布橋灌頂会では、「あの世」と「この世」をつなぐ架け橋「布橋」に道を示す白い布を敷き、女人衆が渡る。この日は、僧侶の声明(しょうみょう)や雅楽が響く中、目隠しした女人衆が全長約45メートル(25間)の橋上をゆっくり往復し、儀式を挟みながら「あの世」と「この世」を行き来した。

起源ははっきりしないが、江戸時代後期には盛んで、明治に入ってから途絶えていた。1996年に136年ぶりに再現されて以降、不定期に開かれて今回が6回目だったとのこと。

記 石川